

令和 8 年度

岡山市一宮浄化センター跡地公園トイレほか新築に伴う

機械設備工事

図面番号	図 面 名 称	縮 尺
	(機械設備図)	
M-00	表紙・図面リスト・付近見取図	1/2500
M-01	岡山市建築設備工事(機械)仕様書	—
M-02	給排水設備 配置図	1/250
M-03	給排水設備 詳細図	1/30



付近見取図 1/2500

工事名	岡山市一宮浄化センター跡地公園トイレほか新築に伴う機械設備工事				No.			
図面名	表紙・図面リスト・付近見取図			縮尺	1/2500	M-00		
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課				令和8年5月		M-03		
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検印	製図	

岡山市建築設備工事（機械）仕様書

I 工 事 概 要

1 工 事 場 所

岡山市北区一宮217番地

2 建 物 概 要

建 物 名 称	構 造	階 数	延べ面積 (㎡)	消防法令別表1	備 考
1F棟	鉄筋コンクリート造	平屋建	21.7		

3 工 事 種 目

(○印のついたものを適用する)

工事種目	工 事 種 別				
	建物別	建 物			
	1F棟				
・ 衛生器具設備					
・ 給水設備	○				
・ 排水設備	○				
・ 給湯設備					
・ ろ過循環設備					
・ 消火設備					
・ ガス設備					
・ 空気調和設備					
・ 冷暖房設備					
・ 換気設備					
・ 自動制御設備					
・ 厨房器具設備					

II 工 事 仕 様

1 共通仕様

別添及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁庁舎精修部の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版（以下「標準仕様書」という）及び公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版及び公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）最新版による。

2 特記仕様

- 1) 適用項目番号に○印のついたものを適用する。
- 2) 特記事項のうち選択する事項は○印のついたものを適用する。ただし○印のない場合は※印を適用する。

	通 用	項 目	特 記 事 項	
一 般 共 通 事 項	①	機 材	国土公共建築課機器材料等指定名簿に規定するものとし、同等品とする場合は監督官の承認を受ける。図示する品番・寸法・姿図及び形状は参考であり、製品及び製造所を指定するものではない。 また、図示する形状及び配管などの取出し位置により、特定製造業者の製品を指示、限定しない。 【図等では環境物品等の調達の進捗等に関する法律】（グリーン購入法）に規定される特定調達物品に該当する機材を使用する場合は、その判断基準、配束事項を満たすものとする。 ※ 資格の区分 Ⅰ（級管工事施工管理技術）Ⅱ（級管工事施工管理技術）・適用しない 本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きの費用はすべて受注者の負担とする。	
	2	主任技術者等の資格		
	③	工事用電力、水、その他		
	4	技 能 士 の 通 用	・ 配管施工（建築配管作業）・熱絶縁施工・冷凍空気調和機器施工・建築板金技能士	
	5	工 事 仮 設 品	※ 関連工事の関係者が設置する足場、作業構合の類は無償で使用できる。	
	⑥	土 工 事 (増設配管は23による)	イ) 埋め戻し土は ・ 山砂の類 ① 親切り土の中の良質土 ロ) 残土処分は ※ 横外に搬出し適切に処理 ※ As.Oは適法に処理すること ・ 横内数均し ・ 横内の指示ある場所に堆積	
	⑦	発 生 材 の 処 理	引渡しを要するもの ※ なし ・ あり（ ・ 機器類 ・ 配管材料 ・ ）	
	⑧	説 明 板	監督官や環境のうへ、設備機器類（ボイラ、冷凍機、各種ポンプ、空気調和機など）及び一連の装置などの取り扱ひ要領を記載した説明板を作成し、指示する箇所に取付ける。	
	⑨	電気容量及び機器表示	イ) 電動機出力、燃料消費量等は、原則として表示された値以下とする。 ロ) 機器類の能力、容量等は原則として表示された値以上とする。 ・ 給水引込負担金（※ 別途 ・ 本工事） ・ ガス引込負担金（※ 別途 ・ 本工事）	
	10	負 担 金		
	⑪	電 線 ・ 電 線 管	イ) 特記なき電線は600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線とする。 ロ) 特記なき電線管は滑潤電線管又は監督官の承認を得た場合は同一外径のねじなし電線管とすることができる。	
	⑫	機器付属の制御盤	ハ) 可とう電線管は第2種金属可とう電線管とする。 標準仕様書によるほか下記による。 ・ 運転ブロック図に適合するものとする。 ・ 接続及び端子は、仕様書を（※ 適用する。 ・ 適用しない。） ・ ボイラ及び外温水槽等の付属品の始動スイッチ2次側、に煤煙温度計用電源端子を設ける。 ・ インバータ用の制御及び操作盤は、仕様書を（※ 適用する。 ・ 適用しない。）	
	装 修 工 事	⑬	塗 装	塗装業者は、※ 監督官の承認する業者 ・ 日本塗装工業会会員 経管の内見及びかり部（戸扉等の内部を含む）は全て塗装を施すこと。（電線管含む）
		⑭	保 温	イ) 保温の種類、材料、施工順序及び厚さは標準仕様書による。 ロ) 保温材質は下記による。 ○ 給排水、通気、ろ過循環（○ ポリスチレンフォーム ・ グラスウール） （床下、屋外露出、階室内はポリスチレンフォームとする。） ・ 給湯管、鋼板製水槽、貯湯槽等（※ グラスウール） ・ 消火管（※ グラスウール ・ ポリスチレンフォーム） ・ 蒸気管（※ ロックウール） ・ 排気管、煙突、煙導（※ ロックウール） ・ 空調設備配管、ダクト（※ グラスウール） ・ 排機ダクト（※ ロックウール） ・ 排気扇（・ ロックウール ・ グラスウール） ハ) 屋内露出（ ・ 機械室 ・ 書庫 ・ 倉庫）の配管、ダクトの保温は屋内露出（一般居室、廊下）に読み替える。
			ロ) 屋外設置機器の外装仕上げは（ ・ ステン鋼板 ・ 溶融7%ミクロン亜鉛鋼板）とする。	
			ホ) 屋内（多量箇所）機器の外装仕上げは（ ・ ステン鋼板 ・ 溶融7%ミクロン亜鉛鋼板）とする	
			ヘ) ビッド内配管の外装仕上げは（ ・ 着色7%ミクロン ・ 保温なし）とする。	
			ト) 保温厚さを標準仕様書以上とする場合には特記する。	
			備考	
			1 屋内露出及び機械室、倉庫、書庫の配管にはバンド・菊巻を取付けること。	
			2 水循環は特記のある場合のみ保温を行う。	
			3 建築基準法施行令第129条の2の5第1項第7号に該当する防火区画などを貫通する給排水管及び通気管並びに消火管は貫通する部分及び前後1,000mmをロックウール保温材にて保温を施すが、建設省告示第1422号（平成12年）又は国土交通大臣認定の方法を適用すること。	
			4 流し願下の排水露出管は保温を施さない。	
			5 保温を施す屋外露出配管の支持部は全て防湿性能を有する合成樹脂製支持台（丸形）によること また、支持バンドは原則としてラッキングの上より支持を施す。	
			6 コンクリート埋設の鋼管にはブラケットテープ（JISZ1901 厚さ0.4mm）1/2巻2回巻きとする。	
			7 埋設フレキシブル継手にはペトロラタム系防水テープを1/2巻1回巻きの上、 ブラケットテープを1/2巻1巻きとする。	

一般

共通事項

事項

項目

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

亜鉛鍍面下地処理

防振継手

フレキシブルジョイント

はつり工事

補修など

他工事との取合い

配管表示

土中埋設配管周囲の保護砂及び埋戻し土・盛土

埋設表示

支持金物、固定金具等

あと施工アンカー

ポンプの電動機の数値

ポンプの名称

保守工具

岡山市標準施工図

耐震措置

スリーブ

振れ止め

道路使用

亜鉛鍍面の下地処理はエッチングプライマ塗りとする。

・ 鋼製フランジ付ベローズ部 (接液部 SUS304) ※ 合成ゴム製
・ ポリテトラフルオロエチレン製 (山)

※ 鋼製フランジ付ベローズ部 (接液部 SUS304) ・ 合成ゴム製

既存のコンクリート床・壁等の貫通部の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。

工事の施工に伴い既成部分を汚染または破損した場合は、既成にならぬ補修をする。

イ) 鉄筋コンクリート部の貫通箇所及び開口部の補強、その他天井のボード切込み及び下地の補強は
・ 本工事 ※ 別途工事
ロ) コンクリート壁、床及び壁等における設備機器、風道、配管等の箱入れ及び貫通スリーブ部は
・ 本工事 ※ 別途工事
ハ) 機器付属の制御盤及び操作盤以降の配管、配線は
・ 本工事 ※ 別途工事
ニ) 別途盤類への渡り配線の接続は
・ 本工事 ※ 別途工事
ホ) 機器のコンクリート基礎
屋上設置のもの
・ 本工事 ※ 別途工事
屋内設置のもの
・ 本工事 ※ 別途工事
ヘ) 自動制御の電線管は
・ 本工事 ※ 別途工事
ト) 自動制御の電線の配線は
・ 本工事 ※ 別途工事
チ) 自動制御器と自動制御機器との配線の接続は
・ 本工事 ※ 別途工事
配管機器等は監督員の指示する箇所に文字失印を記入し、弁にはプラスチック札を取付けること。札の文字等は彫り込みとし、SUSチェーンにて取付けのこと。

イ) 管周囲の保護 ※ 山砂の類 ・ 根切土の中の良質土
ロ) 埋戻し土・盛土 ※ 根切土の中の良い土質 ・ 山砂の類

イ) 埋設表示テープ ※ 要 (※ 給水 ※ 消火 ※ ガス ・ 排水 ・ 圧送管) ・ 不要
ロ) 埋設表示柱・埋設表示ピン (※ 要 ・ 不要)

ポンプのアンカーボルト・ナット及びビッピン等水気のある場所、屋外の機器・配管用の支持金物等は、ステンレス鋼 (SUS304) とする。土中支持もステンレス鋼 (SUS304) とする。

施工後確認試験 (※ 要 ・ 不要)
試験方法 引張試験機による引張試験
確認強度 対象機器ごとの A₁かつ B₁ 本当りの短期引張強度の 2/3 以上
試験箇所数 1 施工単位に対し 1 本以上
対象機器 ・ 重要機器
満槽ポンプの電動機の数値は (・ 4 P (・ 2 P)
ポンプの名称は監督員の指示により見やすい所に取付けのこと。
下記の保守点検に必要な工具一式を提出する。
○ ポンプ ・ 送風機 ・ 吹出口 ○ 網 ・ その他
参照 ※ する ・ しない
設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。また、機器、配管、風道などの耐震対策のため、必要な計算書を監督員に提出する。ただし、重量 1kN 以下の軽量な機器については、設備機器の製造者の指示する方法で確実に行えばよいものとする。
イ) 機器の据付け及び取付け
設計用水平地震力は、機器の質量 (自由表面を有する水槽その他の貯槽にあつては有効質量) に、地域係数と、次に示す設計用標準水平加速度を乗じたものとする。

設計用標準水平加速度	・ 特定の施設	・ 一般の施設
設置場所	機器種別 ・ 重要機器 ・ 一般機器 ・ 重要機器 ・ 一般機器	
上層階	機器 2.0 1.5 1.5 1.0 防振設置機器 2.0 2.0 2.0 1.5 水槽類 2.0 1.5 1.5 1.0	
屋上及び塔屋	機器 1.5 1.0 1.0 0.6 防振設置機器 1.5 1.5 1.5 1.0 水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6	
中間階	機器 1.0 0.6 0.6 0.4 防振設置機器 1.0 1.0 1.0 0.6 水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6	
地下・1階	機器 1.0 0.6 0.6 0.4 防振設置機器 1.0 1.0 1.0 0.6 水槽類 1.5 1.0 1.0 0.6	

上層階とは 2～6 階建の場合は最上層、7～9 階建の場合は上層 2 階、10～12 階建の場合は上層 3 階、13 階建以上の場合は上層 4 層とする。
中間階とは地階、1 階を除く各階で上層階に該当しないもの。
水槽類にオイルタンクを含む
重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また一般機器とは重要機器以外をいう。
・ 給水機器 ()
・ 排水機器 ()
・ 換気機器 ・ 空調機器 ・ 熱源機器 ・ 防災機器
・ 監視制御設備 ・ 危険物貯蔵装置 ・ 火を使用する設備
・ 避難経路上に設置する機器
ロ) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の 1/2 とする。

※ 亜鉛鍍板 ※ つば付鋼管 (水密部) ・ 紙 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (VU)
・ 止水リング (・ 無機物材質: 水密部 ・ 有機物材質: 水密部以外)

ダクト、配管等にあつては、標準仕様書の振れ止めの他必要な箇所に施工する。

※ 施工等で道路を使用する際は道路使用許可等の手続きを行うこと

衛生器具設備

給水設備

1

2

3

4

5

6

1

2

3

4

大便器・小便器

洗浄用タンク

洗浄用タンク固定金物

大便器用洗浄弁

温水洗浄便座

陶器の色

量水器

量水器種類

管 網

ライニング鋼管接続

陶製又はプラスチック製の注意板の取付けは ※ 設計図による。 ・ 取付けは、

※ 防露形陶器製とする。 ・ 設計図による。

※ フタ固定金物とする。 ・ 設計図による。

節水機構とする。

温水洗浄便座は、次の機能を有するほか、JIS A 4422 (温水洗浄便座) によるものとする。
・ 温風乾燥機能 ・ 暖音装置 ・ 操作ボタン
監督員の指示による。

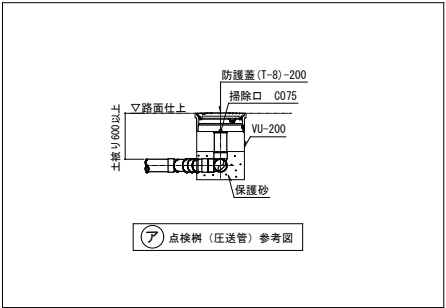
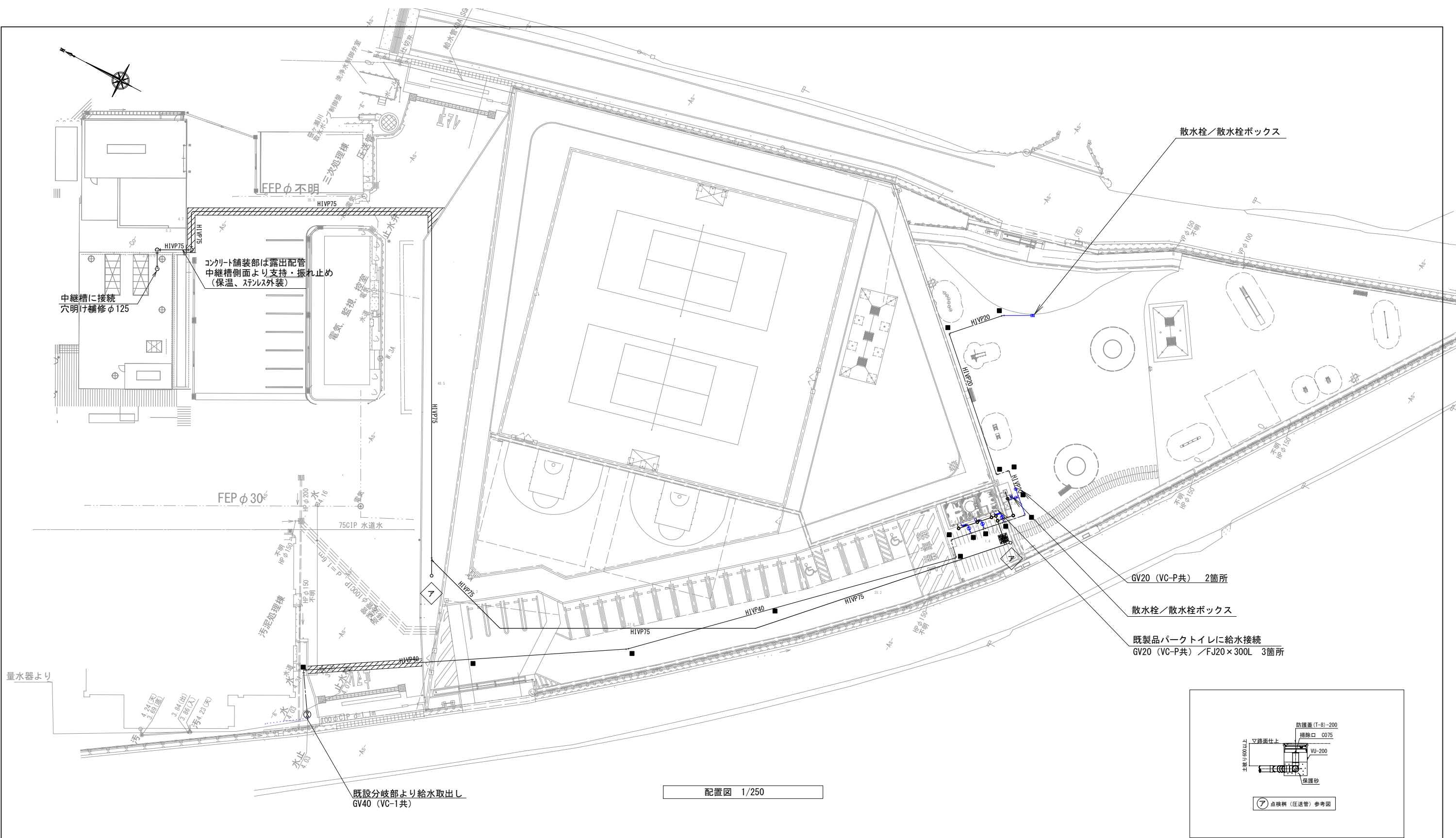
観メータは水道事業者からの借用、子メータは買取りとする。

※ 水道事業者の指定品とする。 ・ その他
下記のものは本仕様による。
イ) 一般配管用
・ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VB ・ SGP-VD ・ SGP-VA) ・ 水道用ポリリン二層管
・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP ・ H1VP) ・ 水道用高性能ポリリン管 (HPPE)
・ 架橋ポリリン管 ・ ポリリン管 ・ その他
ロ) 土間配管、コンクリート屋中
・ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD) ・ 水道用ポリリン二層管
・ 架橋ポリリン管 ・ ポリリン管 ・ その他
ハ) 地中配管用
・ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD) ○ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP ○ H1VP)
・ 水道用高性能ポリリン管 (HPPE) ・ 水道用ポリリン二層管 ・ その他
ニ) ビット配管用
・ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VB ・ SGP-VD) ・ 水道用高性能ポリリン管 (HPPE)
・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP ・ H1VP) ・ 架橋ポリリン管 ・ ポリリン管 ・ その他

100A 以上の接続 ※ ねじ込み接続 ・ 標準仕様書による

給 水 設 備	⑤	弁 類	イ) 公営水道に直結する配管に使用するものはJIS又はJW 10Kとする。 ロ) 高置水槽以降の配管に使用するものはJIS又はJW 5Kとする。ただし、揚水ポンプに使用するもの及び特記部分はJIS又はJW 10Kとする。 ハ) 65A以上の鉄製切断弁、鉄製逆止弁は、ライニング弁とする。50A以下の切断弁、青銅逆止弁は管端コッパバルブとする。 ニ) 埋設箇所は埋設用バルブとする。			
	6	定 量 弁	取付ける。			
	7	水槽周りとかう継手	合成ゴム製（2山以上）			
	⑧	埋 設 深 度	岡山市水道給水装置施工基準に適合する他図示による			
	9	ライニング鋼管管端処理	※ 管端防食継手 ・ 防食コア ・ その他			
	⑩	散水栓ボックス	・ 蓋はSUS製鋼材とする。			
	11	給水管の使用許可	※ 給水管所有者に使用許可等の手続きを行うこと。			
排 水 設 備	⑫	水質基準	水道法に定める水質基準を満たすことのできる管、弁、継手を使用すること			
	①	屋 内 汚 水 管 （第1棟まで含む）	・ 便槽付製品 ・ 排水用ノントールエポキシ塗装鋼管 ・ 耐火二層管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF－VP） ・ その他			
	②	屋 内 雑 水 管 （第1棟まで含む）	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ 排水用ノントールエポキシ塗装鋼管 ・ 耐火二層管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング管 ・ その他 ・ 硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF－VP） ・ その他			
	③	通 気 管	※ 鋼管を使用する場合 汚水合流系統の配管は とする ・ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ その他			
	④	屋 外 排 水 管	※ 硬質ポリ塩化ビニル管（VU） ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（RS-VU） フタ材質 （ ・ 樹脂コーティング ・ 樹脂製 ・ 標準品） ○ 耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管（※フタ圧送管） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ その他			
	5	排水トラップ	・ 樹脂コーティング ・ 樹脂製 ・ 標準品			
	⑥	ます	※ 岡山市標準施工図 ○ 塩化ビニル製ます ○ 樹脂製ます			
	7	グリーストラップ	SUS製炭素コガネ ※ 取付ける ・ 取付けない			
	⑧	マンホール鎖	SUS製鎖とする			
	9	共 給 鎖	SUS製鎖とする			
	10	漏水試験機	図示の位置に取り付ける。			
	11	洗面台接続	洗面器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。			
	12	プール排水管	露出部は塗装仕上げとし保通しない			
⑬	排水処理管	○ 公共下水道 ○ 分流水 ・ 合流式 ・ 合併浄化槽（ ・ 新設 ・ 既設 ） ・ その他				
給 湯 設 備	1	管 類	・ ステンレス鋼管（※ 拡管式 ・ 溶接接合 ・ その他） ・ 鋼管W形 （ ・ 保通付 ・ 保通なし） ・ 架橋ドリフト管 ・ ガリ管等 ・ 耐熱性硬質塩化ビニル管 ・ その他			
	2	弁 類	JIS又はJW 5Kとする。ただし、特記部分は 10K とする。			
	3	脚湯水槽の保温	※ 施工する ・ 施工しない			
	4	給湯用簡易ボイラ	ガスバーナはガンタイプとする。			
	5	ライニング鋼管管端処理	SUS製コア内蔵継手（100A以上防蝕コート）			
ろ 過 循 環 設 備	1	ろ 過 装 置	能力 ・ 60m ³ /h ・ 100m ³ /h			
	2	ポンプ廻り配管	可とう継手 ・ 付ける ・ 付けない 圧力計 ・ 付ける ・ 付けない			
	3	循 環 配 管	給水設備による。			
	4	弁 類	給水設備による。			
	5	保 温	ブルサイド下部は ・ 屋外露出仕様 ・ 床下暗渠仕様 ブルサイド下部の室内は ・ 屋外露出仕様 ・ 機室・倉庫仕様 ・ 床下暗渠仕様			
消 火 設 備	1	屋内消火栓箱	・ 1号消火栓 （ ※ 国土交通省仕様 ・ その他 ） ・ 易操作性1号消火栓 （ ※ 国土交通省仕様 ・ その他 ） ・ 2号消火栓 （ ・ ドラム式 ・ リール式 ・ その他 ） ※ 右側図2号消火栓			
	2	消火栓弁の耐圧	最大使用圧力とする。			
	3	消 火 栓 弁	減圧機構付消火栓弁を ※ 取付ける ・ 取付けない			
	4	保 温	イ) 配管の保温は ※ 施工する ※ 施工しない （屋外露出の保温種別は e2、(ハ)・(ロ) による） ロ) 呼水種の保温は ※ 施工する ※ 施工しない ハ) 充水種の保温は ・ 施工する ※ 施工しない			
	5	フレキシブルジョイント	※ 鋼製ブラジング付ベローズ形（接液部SUS304）			
	6	消 火 ポ ンプ	※ ユニット型 耐衝撃はユニット組込みとする。 ※ 日本消防設備安全センター認定品とする。			
	7	管 類	イ) 一般配管用 ※ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白管） ロ) 土中配管用（土間を含む） ※ 消火用外周硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VS） ・ 消火用高性能ドリフト管(HPPE) ・ その他			
ガ ス 設 備	1	供給ガスの種類	・ 都市ガス （ ※ 13A 発熱量 46MJ/m ³ ） ・ 液化石油ガス （ 発熱量 100.47MJ/m ³ ）			
	2	管	イ) 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管 （ ・ 白管 ・ 黒管 ） ・ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス用ステンレス鋼フレキシブル管 ロ) 地中配管（土間を含む） ・ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管 ・ 塩化ビニル被覆鋼管			
	3	ガ ス メ ー タ	※ メータはガス供給業者より借用、メータは買取りとする。 （ ・ マイコンメータ ・ その他）			
	4	ガスメータの取付	※ 本工事に含む ・ その他			
	5	緊急遮断弁の取付	・ 本工事に含む ・ その他			
	6	供給方式	・ ポンベ ・ バルブタンク			
	7	ポンベ周りの配管	※ 自動切替式			
	8	プロパン庫容確認	指定の箇所に取り付ける			
	9	ポンベ転倒防止	※ 岡山市標準施工図による ・ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）施工73(b)			
	10	管の地中埋設深さ	・ 一般 300mm以上 ・ 車間通路 600mm以上 ・ 1,200mm以上			
	11	沈下対策措置	※ 伸縮継手 ・ 溶接配管 ・ 機械的接合 ・ 継手の組合せ			
	12	電 気 防 蝕	※ なし ・ あり （ ・ 流電陽極法 ・ その他 ）			
	13	耐震対策設計	耐震設計にあたり「内管耐震設計マニュアル（一般建築用）平成11年10月」「高層建築物用ガス設備耐震設計・施工指針」の手引き昭和62年11月）いずれも社団法人日本ガス協会発行を参照する。 備考 1 埋設配管の継手部周りの防食措置は、標準仕様書 第6編第2章 都市ガス設備2.2.5よりガス事業者の承認する工法による。 2 配管の吊り及び支持は絶縁処理を施す。 3 塗装仕上げにおいて仕様書以外に必要な箇所は明記する。 4 マグネシウム陽極の設置基準 ① 低圧埋設配管で溶接接合による100A以上の鋼管管径の延長が3m以上ある場合は、絶縁継手を 取り付け、さらにマグネシウム陽極（犠牲陽極）を設置する。			

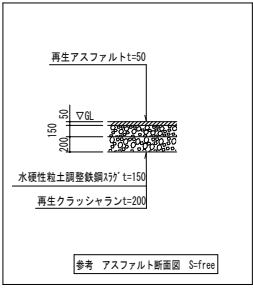
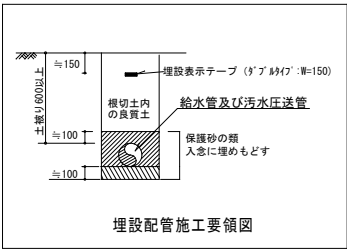
	ガ ス 設 備	② 中間圧・中圧埋設設備の場合は埋設延長にかかわらず絶縁継手とマグネシウム陽極を取り付ける。 ③ その他地盤配管場所が酸性の強い土壌、腐蝕性の強い薬品を扱う工場敷地及びその周辺、湿地等、海水の影響を受ける場所、底さい等による埋立地等、特に腐蝕性が強いと判断される場所の場合は、防食措置を別途検討する。
	空 気 調 和 ・ 冷 暖 房 ・ 換 気 設 備	国土交通省大臣官庁府庁営繕部監修の建築設備設計基準(最新版) 1 設計用温度条件 (温湿度調整目標値) 2 冷水・温水・低温水管 - 配管用炭素鋼管(白管) ・ ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) - 配管用炭素鋼管(白管) ・ 厚肉硬質P塩化ビニル樹脂管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) - 結露防止層付硬質塩化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) 3 ドレ ン 管 ※ 塩化ビニルライニング鋼管 (・ SQP-VB ・ SQP-FVB) - ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) 4 冷 却 水 管 ※ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) - 配管用炭素鋼管(黒管) 5 膨張・空気抜き・補給水管 6 油 管 7 冷 媒 配 管 8 弁 類 JIS又はJVK とする。ただし、特記部分は JOK とする。 9 ファンコイルユニット イ) 流量調節弁を取付 - 定流量弁 (・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 取付 - 遠方操作スイッチの送り配管 ※ 本工程 ・ 別途工事 - 遠方操作スイッチの戻り配線 ※ 本工程 ・ 別途工事 - 遠方操作スイッチのプレートは金属製とする。 - ドレンパンは (・ SUS製 ・ 銅板製 ・ 合成樹脂製 10 吹出口・吸込口 原則、ボックスは亜鉛鉄板製とする。 枠及びスリットの材質は - アルミニウム製 (※ 着色する ・ 着色しない) 11 ダ ク ト イ) 低速ダクトとする。 - 矩形ダクトは、 (・ アングル工法 ・ コーナポルト工法 - 防火区画を貫通するダクトは、その貫通部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。 12 防煙・防火ダンパ 防煙ダンパは、 (※ 電気式 ・ 空気の ダンバ復帰機構は、 ※ 遮断式 ・ 手元式 電気式防煙ダンパ動作電圧、電流はDC24V、9.6A以下とする。 13 風 量 測 定 口 取付位置は図示による。材質はアルミニウム製とする。 14 吹出口チャンバ イ) シーリングディフューザ形状吹出には、下記のチャンバを設ける。 ネック径が200φ以下 400×400×25H ネック径が200φを超えるもの 500×500×300H - 外壁に面するガラリにチャンバ等を設ける場合には原則として排水を設ける。 - シーリングディフューザ形状吹出口接続チャンバ及び図示したダクト並びにチャンバ類とする。 - 内貼タンピング等の寸法表示は、外形寸法とする。 H) 吹出口以外の内貼したチャンバには点検口 (450×500) を取得付ける。 形式はピット管式 (コック付) とする。取付は図示による。 標準仕様書及び図示の箇所のほか、下記箇所に取付ける。 - 温水ボイラの温水管入ロ部 - 空調機と機器との送気風道、外気風道及び給気風道 - 低温水管等 (注) 及び低温水管寄せの各通り管 機器付近以外外部温度計は ※ 円形のバイメタル式 (100φ以上) ・ プルドン管式 イ) 空気漏れを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に 空気抜き等装置を設ける。 ※ 手動 ・ 自動 ロ) 自然空気抜き弁にはストレーナを取り付ける。 中央機械室の冷却水管・低温水管等の吊り及び支持は、防振吊り金物又は防振支持金物で行う。 15 消音内貼り 防振支持金物 20 温度調節器・湿度調節器 取付高さは ※ 1,300mm ・ mm 21 エアフィルタの予備品 イ) 空気調和機又はフィルタチャンバ装着枚数の50%以上を予備品 (特付) として納める。 ただし、自動車取付の場合は100%とする。 ロ) ファノコイルユニットは機種毎に30%以上、また、寒冷ヒートポンプ室内用は100%に当たるフィルタ を予備品 (特付) として納める。最低1枚とする。 22 グリスフィルタの予備品 ※ 100%に当たる予備品を納める。 ・ 納めない。 23 防 振 基 礎 イ) 送風機の防振基礎 (防振ゴム使用の場合) の総効率率は %とする。 ロ) ポンプの防振基礎 (防振ゴム使用の場合) の総効率率は %とする。 24 冷暖配管の保護カバー イ) 屋内露出部の保温化粧カバーは (・ 樹脂製 ・ 鉛重鉛鉄板 ・ その他) とする。 ロ) 屋外露出部は (・ ステンレス鋼板 ・ 樹脂強化化粧カバー ・ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ・ その他) 25 保 溫 イ) 全熱交換機の (・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 廻りダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 二) ポンプ回りの防振緩衝材、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト (・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エアコン本体は将来工事の為、スリーブ (樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のプロコン類はフロア排出抑制法に従って処理すること。 - 家庭用機器 (・ 室外機にプロコン回収、取外し指定場所保管 ・ 本工程対象外) - 吸収式冷凍主機 (・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) - 吸収式冷凍機の吸収液 (・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) 26 ス リ ー ブ 27 冷媒等の処理
工事名	岡山市一宮浄化センター跡地公園トイレほか新築に伴う機械設備工事	N o .
図面名	岡山市建築設備工事 (機械)仕様書	M-01
岡山市都市整備局住宅・建設部公共建築課	令和8年5月	M-03
課長	課長補佐	係長
課員	担当者	承認
		検印
		製図



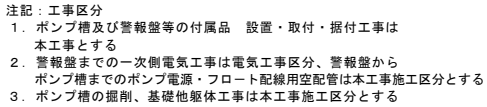
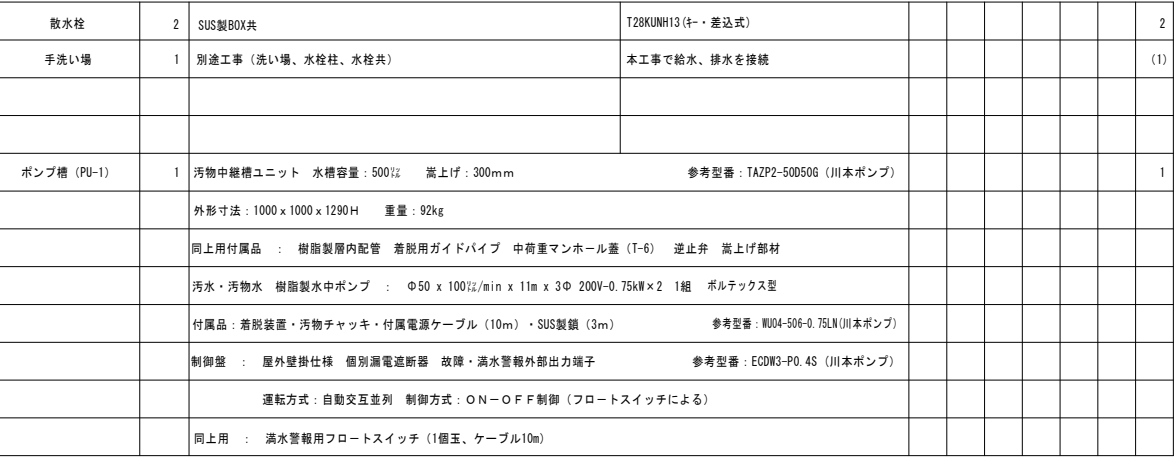
 既存アスファルト撤去・復旧範囲

(注 記)
浄化センターの搬入・搬出車両の動線部分の施工にあたっては、
施設管理者及び監督員と協議すること。
污水圧送配管の曲がり部はベンド継手を使用すること。

凡例									
記号	名称	施工範囲	材料等	記号	名称	施工範囲	材料等	記号	名称
	給水管	土中配管	水道用耐衝撃性ポリ硬質塩化ビニル配管 (PE、HIVP)		雨水管		硬質ポリ塩化ビニル配管 (VU)		
	雑排水管	屋外土中配管	硬質ポリ塩化ビニル配管 (VU)		制御線		ポンプ用 EM-CEES 1.25sq-4C×2本 (付属品)		
	污水管	ポンプ圧送配管	耐衝撃性ポリ硬質塩化ビニル配管 (HIVP)		フロートスイッチ用 EM-CEES 0.5sq-2C×1本 (付属品)		JIS 10K		
	臭突管	土中配管	硬質ポリ塩化ビニル配管 (VU)	⊗ ⊗	ゲート弁				
		屋外露出	硬質ポリ塩化ビニル配管 (カラーVP)	■	地中埋設標		コンクリート製埋設標示杭		
◎	汚水樹		小口径塩化ビニル樹						
⑦	トラップ 樹		ポリ塩化ビニル樹、小口径塩化ビニル樹						
○	雨水樹		ポリ塩化ビニル樹、小口径塩化ビニル樹						



工事名		No.					
岡山市・宮前センター跡地公園トイレほか新築に伴う増設設備工事		M-02					
図面名		縮尺		M-03			
岡山市 都市整備局住宅・建築部 公共建築課		令和8年5月					
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図

[illegible]

工事名	岡山市一宮浄化センター跡地公園トイレほか築費に伴う機械設工事			No. M-03 / M-03	
図面名	給排水設備 詳細図	縮尺	A1:1/30		
岡山市 都市整備局住宅・建築部 公共建築課				令和8年5月	
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認
				検図	製図